

勝山市の医療を考える つどい開催！

5月31日(土)に市民会館大ホールでみだしの講演会・シンポジウムが開催され、市民および関係者約400人が参加しました。その内容についてご紹介します。



尾身 茂氏

講演会 1

「新機構の役割について」
講師 JCHO理事長

尾身 茂氏

福井勝山総合病院を含む、全国57病院のトップである独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の尾身茂理事長に「新機構の役割について」講演いただきました。講演では、これまでの医療は「病院完結型」だったが、高齢化が進む中、これからは、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、いわゆる地域全体で治し支える「地域完結型」の医療に変わらざるを得ない状況であると話されました。また、JCHOの役割として今後次の3点に取り組むことを話されました。

講演会 2

「丹南地域医療と公立丹南病院」
講師 公立丹南病院院長

伊藤 重二氏

① 超高齢化社会を迎え、地元医師会、自治体等と連携し、急性期からリハビリ、介護など切れ目のないサービスを提供できるグループとして、時代の要請にこたえていく
② 公的品格の強い独立行政法人としての役割を果たし、地域医療が一步でも前進するために貢献する
③ 組織運営においても、透明性を確保し、社会的説明責任を果たし、自立的な病院経営をしていく

伊藤 重二氏



一般の参加者からの質問

兜院長は、この4月から新体制での運営が始まった福井勝山総合病院の機能説明と、今年10月から回復期リハビリテーション病棟を新たに設置すること、地域住民や行政・医師会などで構成し病院の運営等について話し合う地域協議会を6月末に設置することを紹介しました。

若林医師会長は、かかりつけ医の高齢化、医療機関数の減少、福井勝山総合病院の医師・看護師不足など、勝山市の医療の課題をあげ、これからの勝山市の医療は、病院と診療所・介護の連携強化、福井勝山総合病院の充実と利用促進が重要だと発表しました。

参加者からの声

会場からは、子や孫のためにも福井勝山総合病院を守り育てることが私たちの使命であるという力強い発言や、奥越2次医療圏からの患者の流出を防ぐこと、病院は医療だけでなく地域の雇用の場にもなっていることから、医療を含め地域社会での役割を病院がどう担うか話し合いができる地域協議会にしてほしいという要望がありました。

なお、このつどいには、全国ネットワークで勝山市とともに運動を展開した大分県由布市、秋田県能代市、高知市からも病院・行政関係者が12人出席しました。

まとめ

最後に尾身理事長は「地域には多種多様な協議会があるが、会議をしても地域は変



写真右から助言者を務めた尾身氏、伊藤氏

わっていかない。その大きな原因は、それぞれの団体が自分の利益を押し通そうとするからである。地域住民全体のため、地域がより活発になり、みんながこのまちに住みたくなるというような大きな目標を持ち、会議で決めたことはみんな取り組んでほしい。そして、医療はまちづくりの中で考えてほしい。また、これからは勝山のいいところを感じながら、世界とつながる道をつくることは、若い人にとってより一層魅力のあるまちになる。ITを利用し遠隔医療を利用することで東京にもつながる世界にもつながる。」と助言されました。

第3回 村岡山写真・絵画コンテスト作品募集

対象▶村岡山に関する被写体ならなんでも
部門▶写真部門、絵画部門（小学生以下）
様式▶写真…2L以上、
絵画…四つ切または八つ切画用紙
申込締切▶10月3日（金）
申・問 村岡公民館 ☎88-0366

人権擁護委員のご紹介

4月1日、法務大臣より新たに3名の方が人権擁護委員に委嘱されました。任期は3年間です。

- 再 天野 恭子氏（猪野）
- 新 小寺恵美子氏（郡町2）
- 新 伊藤 誠一氏（旭町1）

※同委員は、交替で人権相談を行っています
問 未来創造課（市役所2階）☎88-1115

水道等メーターの交換

水道等メーターは、計量法によって8年（検定期間）ごとの交換が義務付けられています。（今年度の交換対象は平成19年度製）
メーターの交換は、来年3月までに市が委託した勝山市管工事業協同組合の担当者（市発行の身分証明書を着用）が行いますので、ご理解とご協力をお願いします。

<交換に際してのお願い>

- ①ご不在の場合でも、交換のため敷地内に入り作業させていただきます
- ②メーターボックスの中や周りに物を置かないでください
- ③メーターの交換は無料ですが、お客様の費用負担が必要となる場合があります。その場合は、事前にご連絡します

問 上下水道課（市民会館2階）☎88-8109

「地域医療を推進するために」シンポジウム

「パネラー」
・よりよい地域医療機能推進機構の創設を目指す全国ネットワーク
丸山 和彦氏
・住民代表 碓 かつ枝氏
・JCHO福井勝山総合病院 兜 正則院長
・一般社団法人勝山市医師会 若林正三郎会長



写真左から丸山氏、碓氏、兜氏、若林氏、山岸市長

在は常勤職員数も増え、丹南地域の中核病院として、へき地医療や災害医療にも取り組んでいることを話されました。また、軽症にもかかわらず、自分の都合だけで時間もかまわずに医療機関を受診する、いわゆる「コンビニ受診」の問題点として①時間的・物理的に重症患者への対応に支障が出る可能性 ②医療者側の勤労意欲を著しく低下・疲弊させる行為であることを参加者に伝えました。そしてコンビニ受診を減らすために病院でチラシをつくり、利用者に配布するなどの取り組みを行ったことも紹介されました。

■各パネラーの発言
丸山氏は、市民の立場で病院存続運動に取り組み、全国の住民・病院・行政と連携した運動に発展させ、社会保険病院が公的病院として存続するための法案の成立に向けた要望活動を行うなど、地域医療を守るための住民運動の成果について発表しました。
碓氏は、自身の体験から健康を受けることの大切さと、地域医療を守り、勝山で安心して生活するために、まず開業医にかかり、入院が必要なときは福井勝山総合病院にかかること（病診連携）の大切さを発表しました。